



アラウコ マリア

MARIA ARAUCO

(ペルー)

外国人集住都市会議オンラインシンポジウム2024

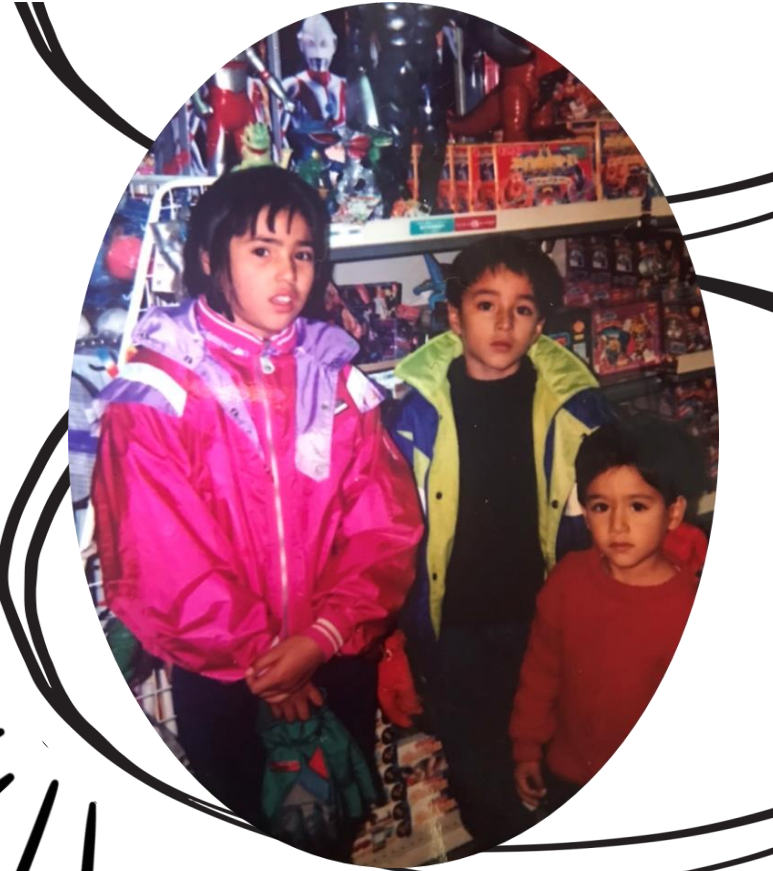
プロフィール

- ◇ペルー生まれ日系3世。岡山育ち。
- ◇1992年, 11歳の時に来日。小学校から大学まで進学。
- ◇現在, 三重県四日市市在住。子ども2人(11歳と8歳)。
- ◇言語: 日本語・スペイン語・英語・ポルトガル語

さまざまなコミュニティ通訳を経て

- ◇2017年 MIEF(三重県国際交流財団)実践 医療通訳育成研修を受講
- 2018年 三重大学医学部附属病院 入職
- 2020年 国際臨床医学会ICMスペイン語医療通訳士 認定
- 2023年 三重県医療通訳士研究会MMIA

プロフィール



1992年

- 11歳で日本語0の状態に来日

『外国人から見た日本の多文化共生(国や自治体に期待すること)』

子供の頃、日本社会に溶け込むのに苦労したこと

- 1990年代は外国人を受け入れる体制が整ってなかった
- 両親が日本の教育システムを理解していなかった
- 兄弟でも学校ではスペイン語で話さない
- 親からのアドバイスがもらえなかった

親を尊敬できなくなる



■日本で母親になって、子育てで苦勞したこと

■他の外国籍ママさんからよく聞く困りごと

- ・保育園の申請(就労証明書)
- ・育児の相談先が分からない
(各制度の申請方法・健診・予防接種・かかりつけ医)
- ・ママ友(情報源)
- ・一人育児(周りに家族がいない)

事例発表 1





矢口エミリ沙織
IAGUCHI EMILY SAORI
(ブラジル)

外国人集住都市会議オンラインシンポジウム2024

- ◇**日系ブラジル人4世。日本生まれ日本育ち。**
- ◇**日本の幼稚園から大学まで進学。**
現在, 名古屋外国語大学 世界共生学部4年生。
- ◇**愛知県半田市在住。**
R6.10現在 外国人人口 全体の約4%(4,909人)
そのうちブラジル人人口は約37%(1,858人)
- ◇**ブラジルコミュニティ関連の活動。**

『外国籍の子どもへの学習支援』

キーワード：**正確**な情報の提供

◇ 外国人生徒にあったサポートの充実

- 日本人学生と必要な情報が異なる。
- 子供と親のコミュニケーションギャップ。

◇ 将来の進路が描けるためのサポート

進路決め、情報集め、親の説得などの一連の作業は子供だけで行うのは限界がある。

⇒ 学校側が積極的に行うことが望ましい。



ホー ヴァントウイ
HO VAN THUY
(ベトナム)

外国人集住都市会議オンラインシンポジウム2024

- ◇ベトナム生まれベトナム育ち(クアンビン省ドンホイ)。
- ◇ベトナムの高校を卒業し、2019年、20歳の時に来日。
技能実習生として、総社市の自動車部品メーカーで働き始める。同時期に兄は労働者として韓国へ。
- ◇技能実習生として3年働き、2022年に特定技能1号取得。
- ◇今年7月、転勤のため、現在は愛知県豊橋市在住。

『 技能実習制度の課題(長期間安定して働くことができる環境づくり) 』

◇兄は韓国を選び, 自分は日本を選んだ。

◇日本が『選ばれる国』になるには何が必要か。



岡山県 総社市長
片岡 聡一
KATAOKA SOICHI

外国人集住都市会議オンラインシンポジウム2024

総社市の概要



人口 69,641人 (R6.10.1現在)

外国人 1,906人 ↗(過去最高)

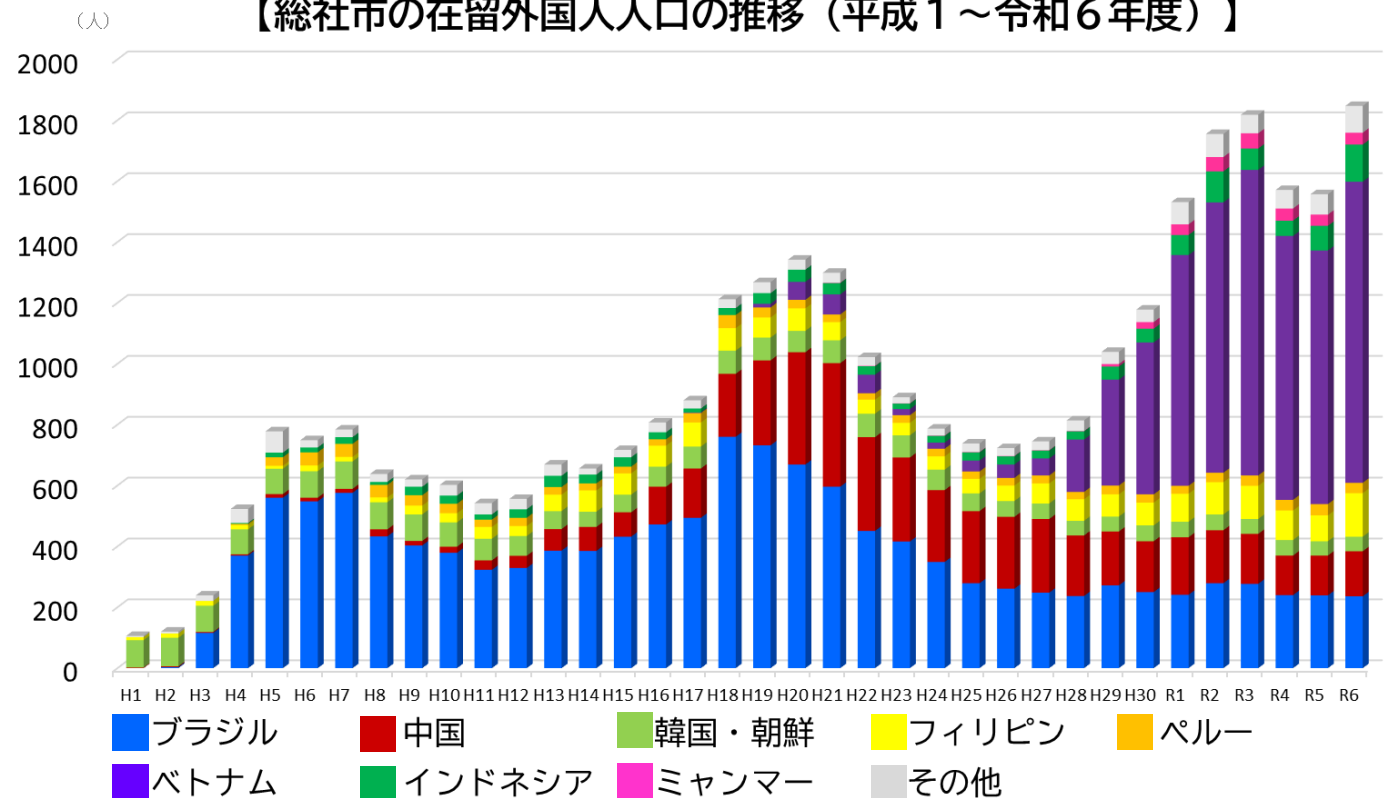
外国人の割合 2.74% ↗(過去最高)

国籍別人口

①	ベトナム	1,035人	(54.3%)	↗
②	ブラジル	223人	(11.7%)	↘
③	フィリピン	150人	(7.9%)	↗
④	中国	143人	(7.5%)	→
⑤	インドネシア	136人	(7.1%)	↗



【総社市の在留外国人人口の推移（平成1～令和6年度）】



『ラテンアメリカとの多文化共生から東南アジアとの多文化共生へのシフト』

- ◇ラテンアメリカから多文化共生を学んだ。
- ◇それをこれからもっと増えるであろう東南アジアとの多文化共生にどう活かしていくか。